

## ハイテクブルーフはPFOS/PFOAを使用していません。

ホルメンコール 品番 22150 商品名『ハイテクブルーフ』の原料について

2012年4月26日

社団法人日本スポーツ用品工業協会（JASPO）より、環境負担軽減を目的とした撥水剤タイプの変更に関する通知が昨年末に出ています。環境残存性のある「PFOA」（パーフルオロオクタン酸）は、「フッ素タイプ」と呼ばれる撥水剤に微量ながら使用されています。この「PFOA」の使用を、2012年秋冬シーズンをめどに撤廃する（PFOAフリー）動きです（通知は次のページに記載してあります）。

「フッ素は有害だ」「フッ素は使えなくなる」…。さまざまな憶測が先行していると思います。フッ素とひとりに言っても、その種類（化合物）は数多く存在します。今回問題になっている「PFOA」や「PFOS」（パーフルオロオクタンスルホン酸）もその中のひとつです。フッ素系の撥水剤に多く使用されています。

フッ素自体に害があると正式に認められているわけではありません。これらの物質は安定性が非常に高く、分解されにくい性質を持っています。それゆえ自然界や体内に残存・蓄積されてしまう恐れがあるのです。現在は認められていなくても、後々有害性が確認された場合には取り返しのつかないことになる可能性があるのです。安定性の高い物質であるフロンやアスベストなどがその例です。

こうした危険性を回避するために、環境問題に敏感なヨーロッパでは、ストックホルム条約（残留性有機汚染物質の減少を目的とする条約）、RoHS（ローズ）指令（EUによる、電気機器における特定有害物質の使用制限）、REACH（リーチ）規制（EUにおいて人体や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する法律）などですでに厳しく制限されています。『ハイテクブルーフ』の原液は、こうした厳しい制限を設けたヨーロッパ（ドイツ）の本社工場で製造されています。

以下、ドイツ・ホルメンコール本社からのアナウンスです。

- ・ハイテクブルーフには、有効成分として原料にPFOSやPFOAは使用していません。
- ・ただし、製品原料の合成や充填過程※において、当該物質が不純物として混入してしまう可能性は否定できません。
- ・万が一混入してしまった場合でも、分析データでは0.01ppm以下（1kgあたり10μg以下）になります。
- ・欧州連合法規2006年122EG号（PFOS禁止法例）に基づいても、この数値は問題ありません。ハイテクブルーフは今日のPFOS基準からして重大な危険性はありません。

※日本国内向け製品は、原液をドイツ本社より輸入し国内工場で充填しています。



ホルメンコール社はナノテクノロジーを導入し、ハイテクスポーツコーティングのクオリティ向上を目指すとともに、生物分解性原料を積極的に導入して環境負担軽減を同時に目指しています。

今後も『ハイテクブルーフ』をはじめとするホルメンコール製品を、安心してご使用ください。



株式会社ホルメンコールジャパン

〒344-0053 埼玉県春日部市梅田本町 2-37-3

電話 048-796-8788

<http://www.holmenkol.jp/>

**HOLMENKOL**  
LICENSE TO WIN

# はっ水剤タイプ変更のお知らせ

—環境負荷軽減に向けて—

社団法人 日本スポーツ用品工業協会

- スポーツ業界では、スキーウェア、アウトドアウェア、ゴルフレインウェアなどで、ウェア表面が濡れにくいように、「フッ素系」と呼ばれるはっ水剤が長年使用されてきました。
- はっ水剤を製造する薬剤メーカーによりますと、これまでのフッ素系はっ水剤には、環境残存性のあるフッ素化合物「PFOA」と呼ばれる物質が微量に含まれていました。そこで、世界の主要はっ水剤メーカーが自主削減プログラムに参加し、2015 年全廃を目標に取り組んでいます。そして日本では 2012 年秋冬シーズンを目処に、新処方のはっ水剤(PFOAフリー)への切り替えが進んでいます。
- しかしながら現時点では、新処方のはっ水剤は従来処方に比べて、はっ水性能の耐久性がやや低い傾向にあることが判明しています。(繰り返し洗濯、擦れ、汚れ付着などによる、はっ水性能の低下)
- 当協会加盟各社は、今後とも薬剤メーカー、生地メーカーと共に、はっ水加工製品の性能の向上に向けて努力を重ねてまいります。環境負荷軽減のための積極的な取り組みとご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

以上